

速報

平成 26 年度後期検定（1 級第 4 回、2 級第 13 回）の結果分析と対策

【総括】

課題	対策
1 級・2 級とも、学科試験の合格率が高く、実技試験の合格率が低い	1 級、2 級とも、学科試験で確実に合格ラインに到達するとともに、実技試験の合格を目指す。
1 級・2 級とも、実技試験の合格率が低下傾向にあり、とくに 1 級の合格率が大幅に下がった。	「試験」の「合格」を見据えた実技試験対策機関を活用した対策を十分に行い、難関を乗り越える。
1 級・2 級とも、総合合格者が減少した。	学科試験の「一部合格者」になった人は、一部合格による試験免除の有効期間（2 年間）以内に、実技試験にも合格するための対策をしっかりと行う。

【1 級】

1 総合

【結果】

(人、%)

回数	1 回	2 回	3 回	4 回
申込者数	234	281	356	488
合格者数	4	9	48	38
合格率	1.71	3.20	13.48	7.79

- ・第 3 回との比較では、申込者が 132 人と大幅に増えたが、合格者は逆に 10 人減少し、合格率も 5.69 ポイントの大幅な低下となった。
- ・学科試験の合格率は上昇し合格者が増加したが、実技試験の合格者が増加しなかったことが、総合合格者の減少と合格率の低下につながった。

【対策】

1	1 級総合合格に向けて、学科試験を確実にクリアできる実力を身に付けるとともに、実技試験の対策を十分に行うことが求められる。
2	実技試験ではとくに、1 級試験と 2 級試験との質的な違いがあることから、1 級と 2 級では採点の視点や評価の基準が異なることを認識して対策をすることが不可欠である（1 級試験は、2 級試験の延長線上にはないことを認識することが実技試験合格への第一歩である）。
3	これまで、学科試験の「一部合格」しており、次回に学科試験免除の権利を持つ人は、権利行使が可能な期間中に、必ず実技試験に合格するために、「1 級試験合格のノウハウを提供できる機関」による指導を受けるのが最適の方法である。

2 学科試験

【結果】 (人、%)

回数	1回	2回	3回	4回
申込者数	232	277	338	400
合格者数	5	21	119	156
合格率	2.16	7.58	35.21	39.00

- ・第3回との比較では、申込者が62名増加したが、合格者も37名増加したため、合格率が3.8ポイント上昇した。

【対策】

1	『キャリアの青本』を活用し、第3回・第4回の学科試験で出題された範囲について、知識を得ておく。
2	得点を上積みし、合格をより確実なものにするために、問題へのアプローチのノウハウを身に付けておく（日本語の「語感」で正答をみつける方法など）。
3	模擬試験などで、実力を確認するとともに、弱点や苦手分野をなくしておく。

3 実技（論述と面接）試験

【結果】 (人、%)

回数	1回	2回	3回	4回
申込者数	214	214	250	395
合格者数	44	44	28	35
合格率	20.56	20.56	11.20	8.86

- ・第3回との比較では、申込者が145人増加したが、合格者が7名しか増加せず、その結果、合格率が2.34ポイント低下し、過去最低となった。
- ・第3回検定で学科試験の「一部合格」となった人が総合合格を目指して実技試験に挑んだが、難しい結果になったと思われる。

【対策】

1	実技試験の1級と2級では「質的な違い」があることを認識して、「1級試験」の合格に向けた対策を講じる。
2	1級実技試験では何が問われているかを分析し、理解している試験対策機関を活用し、合格に向けた論述の書き方と面接の指導を受ける。
3	面接試験で、「指導者」がキャリア・コンサルタントに「事例を指導する」ことの意味を正しく理解し、ロールプレイの実力を向上させる。

【2級】

1 総合

【結果】

(人、%)

回数	8回	9回	10回	11回	12回	13回
申込者数	1984	2617	3248	4785	1684	3237
合格者数	550	597	664	891	83	508
合格率	27.72	22.81	20.44	18.62	4.93	15.69

- ・第9回以降（第12回は特殊な事情のため対象から除外する。以下同じ）にみられる総合合格率の低下傾向に歯止めがかからず、過去最低の数値となった。
- ・合格率低下の主たる要因は、実技試験の合格者が少なく、合格率が下がったことである。
- ・平成26年度の検定では、前期（第12回）と後期（第13回）を合わせて、合格者が591人であり、平成24年度の1147人、平成25年度の1555人に較べて、半数以下にとどまっている。

【対策】

1	2級総合合格に向けて、学科試験合格に必要な基本的知識を確実に習得するとともに、実技試験の対策を十分に行うことが求められる。
2	実技試験ではとくに、論述試験と面接試験で問われていること、評価されることが何かを分析して、対策を講じることが不可欠である。
3	2級試験は、合格率が20%を下回る試験になってきたので、確実に合格するためには、自分でしっかりとした対策法を確立するか、「合格のノウハウを提供できる機関」による適切な指導を受けることが効率的な方法である。

2 学科試験

【結果】

(人、%)

回数	1回	3回	5回	7回	9回	11回	13回
申込者数	514	261	416	507	683	808	2887
合格者数	264	118	116	152	371	521	1699
合格率	51.36	45.21	27.88	29.98	54.32	64.49	58.85

- ・第13回は、「特例講習修了による学科試験免除」制度が廃止された後、最初に行われた学科試験であり、第11回との比較では、申込者数が2079人、合格者数が1178人と大幅に増加したが、合格率が5.64ポイント低下した。
- ・最近の3回の結果をみると、申込者の半数から6割程度が合格する試験であることが定着しつつある。

- ・第13回の問題では、日本語の語感や問題文の文言から正答肢が判明する問題が相当数みられたことが、この合格率に反映していると推測される。

【対策】

1	『キャリアの赤本』や『キャリアの青本』を用いて、効率的な学習を行い、確実に合格するための実力を身に付ける。
2	分野ごとの出題数や難易度などを的確に分析し、試験に出題されるところから学習する効果的な学習ノウハウを行う。
3	日本語の語感や受検のノウハウで得点を上積みするためのスキルを身に付けるとともに、模擬試験で実力を確認しておく。

3 実技（論述と面接）試験

【結果】

(人、%)

回数	8回	9回	10回	11回	12回	13回
申込者数	1984	2381	3248	4533	1648	2429
合格者数	628	594	729	934	290	461
合格率	31.65	24.95	22.44	20.60	17.22	18.98

- ・第9回以降（第12回は、特殊な事情のため対象から除外する。以下、同じ）にみられる格率の低下傾向に歯止めがかからず、20%を下回結果となった。
- ・第11回と比較して受検者が2104人減少し、合格者が473人減少、合格率が1.58ポイント低下した。第11回は「駆け込み受検者」が増えたと言われたが、第13回では、そのときよりも合格率が低い結果となった。
- ・合格者数は461人であり、第7回の464人以来、6回ぶりに500人を下回る数値となった。

【対策】

1	論述試験の「逐語記録」から解答への道筋を導き出すための方法と、問題に応じて解答に書くべきことが何かを見きわめる能力を身に付ける。
2	面接試験では、自己流や個人の体験による指導ではなく、「試験」で試験官が何を評価するかを総合的に分析して示すことのできる機関による指導を受ける。
3	ロールプレイは、「相談者役」の研修を受け、本試験と同様の対応ができる機関の指導を受ける。